

生徒アンケート

2022.10.19

近頃、自分の国語の授業を振り返っている。資料は、3年もの間イタリアに行く前に、実家に預けておいたダンボールに入っていたものである。帰国後も、そのまま実家に置かせていただいていた。それが、ついつい何年もの期間となってしまった。

いよいよもって実家から処分命令が下った。仕方なく、家人と実家に向かった。もう何年も見なくても済んだ荷物である。家人からは、そのまま捨ててしまおうという投げやりな提案があった。同意はできなかった。もはや、どんな荷物を預けたのかも記憶が定かではない。

一応、中身を確かめながら捨てることにした。すると、どうだろう。次から次へとお宝が出てくるのではないか。もう使えないと判断し、処分したものもある。だが、結婚式のビデオ、イタリアに行く前までの写真など捨てられるわけがない。

家人のターゲットになっていたのは、私が勤務した2校分の膨大なファイルや書籍である。確かに、それまでは使わずに済んでいた。存在を忘れていても何の不都合もなかった。

ところがである。現在、私が振り返っている国語の授業は、実家に眠っていた2校分の資料なのである。B5判のファイルがある。B4判のファイルもある。懐かしい。これこそがお宝である。昔の授業が一気に蘇った。この2校分のデータはパソコンではなくワープロだった。したがって、パソコンにはデータがない。紙媒体に頼るしかない。

授業の足跡をたどると、生徒に書いてもらったアンケートが出てくる。あの頃は、初めて授業に取り入れた指導方法が多かったため、その有効性や課題などを探るために、学習者である生徒に書いてもらっていた。

改めて分析しながら読んでみると、実に的を得た記述内容が多いことに感心させられる。そして、イタリアから帰国後に勤務した学校では、生徒からもらったアドバイスを生かしながら授業を行っていたことがわかる。生徒は、私の授業のよき評価者であり、アドバイザーだった。

家人の言うことを聞かずによかった。できれば、もう少し早く実家に行き、荷物を整理しておけばよかった。そうすれば、今行っている作業は、もっと早くから行うことができていたはずである。後悔先に立たずである。

昔の生徒アンケートを読み返すと、生徒が真摯にアンケートに向き合ってくれていたことがよくわかる。ありがたい。生徒の顔も次から次に浮かんでくる。こんな調子だから、我が家から物がなくならない。もはやあきらめている。

これからは、捨てるのではなく、いかに活用するかを考えていきたい。荷物に存在意義をもたせるのである。そのことを生徒が書いてくれたアンケートが教えてくれた。